

編集長：坂内良明

編集委員：石井宏典 塩澤諒子 蛭灰谷愛 平岡惟 増田圭輔 矢原有理

2007年度第1回研究室会議

新たな息吹を吹き込む新メンバー参入

text_shiozawa

新たにM1が加わってから初めての研究室会議が行われました。今年は都市工デザイン研究室11名、新領域空間計画研究室4名が新たに加わり、4年生の見学者も含め、8階の会議室は入りきれないほど人であふれかえりました。今年も活みなぎるデザ研の新たな1年が始まります。西村・北沢両教授の激励の言葉に始まり、研究室の活動紹介、新M1の自己紹介を行いました。プロジェクトは昨年に引き続き、喜多方、京浜、新宿、鞆、八尾を続行。それぞれのプロジェクト紹介はてんこ盛りで、改めてデザ研の活動の活発さと幅の広さを実感させられます。

研究室会議の後は場所を移して新入生歓迎会。どのプロジェクトをしようか？どんな院生生活なのか？新たなメンバーはこれからの2年に不安と期待を抱えて会話は尽きません。途中、たまたま別件で同じ店にいらっしやった法政大の陣内秀信教授の登場で思いがけず貴重なスリーショットに一同興奮。そんなサプライズもあり、より楽しい歓迎会になりました。



上) 研究室会議の様子。M1は一人ずつ自己紹介
下) 近頃行き着けのダイニングカフェで歓迎会。サプライズのスリーショットも。

M1紹介

マガジン編集部ではデザ研新M1に大学院生活での抱負などちょっとしたアンケートを実施しました。簡単ではありますが、ここで少し紹介をしたいと思います。

<ol style="list-style-type: none"> 1. 氏名 2. 出身 3. 興味・関心・趣味 4. 都市デザイン研究室を志望する理由 5. 大学院での抱負 6. 将来の志望 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鈴木淳也 2. 都市工 3. テニス 4. 人数が多いから 5. 時間の使い方をおぼえる。海外での経験をつむ。 6. デベロッパー 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 蛭灰谷愛 2. 東京大学工学部計数工学科 3. 散歩(知らない街を歩く)、旅行 4. 自分の手でまちをつくりたい。 5. 基礎からしっかりがんばります。 6. 日本をよくする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 亀長尚尋 2. 都市工 3. 江戸 4. 学部でやり残したことが沢山あるので、納得できるまでやりたくて。 5. 都市に関われるだけの素養を身につけたいです。 6. 都市に関わる仕事に就くこと。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鎌形敬人 2. 都市工 3. 都市工 4. ヒューマンスケールで考えられること。「手を動かせること。」 5. 基礎からきちんとやり直します。 6. ゆっくり探します(といってもたった一年で就活(泣)) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 北村修一 2. 横浜国立大学教育人間科学部マルチメディア文化課程 3. 旅行、ツーリング(自転車) 4. 実際に地方の街を訪ねて現地の人と話ができること 5. 就職した同期に負けないようにする 6. まちづくりの仕事ができれば...
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大道亮 2. 都市工 3. 中国の歴史等が好きです。趣味は国内の一人旅行。青春18切符にお世話になっています。 4. 野原さんと中島さんがいらっしやるので。 5. 世界へ! 6. まだ決まってません。研究者(?) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. パンノイ・ナッタボン 2. 都市工 3. テニス、映画 4. 中島さんと野原さんがいるから。 5. たのしく勉強します 6. まだ決めてません。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平岡惟 2. 都市工 3. バスケ、プロ野球、さんぽ、人間観察とか。 4. にぎやかそうだから。 5. いろいろなことに積極的に関わる。興味があればとりあえずやってみる。 6. 模索中です。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 増田圭輔 2. 都市工 3. ビール、ワイン、モルト、司馬遼太郎、弦楽器 4. プロジェクトがおもしろそう 5. そこそこがんばります 6. そこそこな人生 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 矢原有理 2. 北海道大学建築都市学科 3. 歴史的街並保全 旅行、散歩、写真 4. 歴史的環境保全に興味があること、プロジェクト 5. 自分のテーマを持ってプロジェクトに臨むこと、英語力を磨くこと。 6. 歴史的環境保全に何らかのかたちで貢献したいです 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 山田浩 2. 都市工 3. 音楽を聴く(ジャンル問わず)。ジャズピアノ練習中 4. 北沢先生に絶妙な距離感で師事していきたいから。 5. なるべく睡眠時間を確保する。 6. エクステリアデザイナー・横浜市長

都市工OB会盛大に開催

M2 ウィチエンブライト・ボンサン

去る4月19日(木)に5年に一度の都市工学科同窓会が行われました。特に今回は40周年を記念した総会・懇親会となりました。会場は先月オープンしたばかりで話題沸騰中の東京ミッドタウン内の超高級ホテル「ザ・リッツ・カールトン東京」だったということもあり、開始時刻には早くもたくさんのお客でホールが溢れていました。都市工の教員陣をはじめ、OB・OGや現役生がこれほど一斉に多く集まる機会を見たことありませんでした。

会場の一角では、都市デザイン研究室関係者の懐かしい顔が勢ぞろいし、楽しい同窓会となりました。他方では、ステージで行われていたセレモニーの様子が察知で

きないほどの盛り上がり具合で話があっちこちで弾み、世代・研究室の枠組みを越えた交流が盛んに行われていました。2時間あまりの短時間でしたが、都市工生はこうやって繋がっているのを実感できたひと時でした。



小宮山総長の挨拶

シンポジウム「風景のリデザイン」 都市学と情報学の日米対話

text_shiozawa

4月25日(水)東京大学本郷キャンパスで「風景のリデザイン」と題してシンポジウムが行われた。司会を西村教授が務め、パネリストとしてアメリカからリーブス教授始め他に2人の都市学者と情報学者が招かれた。このシンポジウムでは、日米の都市学と情報学の専門家が、都市のコミュニティ作りと情報技術の新しい出会いの可能性についてディスカッションするもので、歴史・文化的遺産を活かしながら活気あるコミュニティをいかに形成するか、地域社会・経済再生において情報テクノロジーはいかなる役割を果たすのかを議論した。

カフェなどは十分に社交の場で人との出会いや会話を生む場所のはずが、i-podを聞いたり、持ち込んだノートPCで仕事をしたりとそれぞれが個人の世界を作っている。情報技術が発展した今、都市の中で人の行動にも影響を与えているようだ。

そうした中、後半のディスカッションでは、コミュニケーションがWeb上でデザインされてきているように、コミュニケーションをいかにして都市内で空間化していくか?という問いかけから、コミュニケーションデザインを組み込んだ都市空間・都市デザインの可能性について、白熱した議論が展開された。



リーブス教授の論題：「米国における遺産の保存そして地域社会再構築のための効果的な営利団体と教育プログラムの開発」

柏スタジオさらなる展開

text_hirao ka

都市デザインスタジオ2007が始まりました。今回のスタジオのテーマは「新しい公共空間を構想する」。柏の葉地域の6つの敷地を対象として、それぞれにまちづくりの起点となりうる小さな公共空間を設計するというものです。参加大学は東京大学、東京理科大学、千葉大学。都市デザイン研究室からは、M1を中心に9人が参加しています。

4月14日に柏の葉まちあるきが行われたあと、今は第一段階としてそれぞれの敷地につき4~6人のグループで、なにをつくるか、どんな空間にするか、議論を進めています。最終段階ではそれぞれの公共空間から柏の葉地域への展開も計画していくとのことです。



今回も理科大や千葉大の学生も多く参加している

八尾2006年度報告書完成

text_shiozawa

2006年度八尾プロジェクトの集大成、活動報告書が完成しました。1年で行った現地での実測調査などの基礎調査や、ヒアリング、アンケート結果などを盛り込み、上新町の中の具体的な場所に対しての空間的提案、あるいは仕組みの提案など、計19の提案をしました。そしてさらに参考資料として全国の様々な事例紹介を付け加えて、最終的には200ページを超える力作となりました。またこれをステップに、今年度も更に有益な提案ができるよう励んでいこうと思います。



できたてほやほやの生原稿です。重量感。



追伸：
八尾から球根で買ってきたチューリップがめでたく開花。M2 伊藤が真心こめて育てました。

新・マガジン編集部増員！

今年で3年目を迎える研究室マガジンですが新M1が加わって編集部もますます増強されました。新たなメンバーを代表して一言。



マガジンをとおして、いろんなひとやことと関わりたいと思います。よろしくお祈りします。(平岡)

研究室の雰囲気がより多くの人に伝わるよう、企画や英語版も頑張ります。(日々カメラを持ち歩いていますので、研究室の皆様ご協力お願いいたします。)(矢原)



編集後記

text_shiozawa

もうこの研究室にいて1年がたつかと思うと時の流れの早さには驚きを隠せない。ついついM1と言われて反応してしまいそうになる。初めての研究会議やプロジェクトが始まる何ともいえない期待感とともに、半分浮き足だってふわふわしていた1年前を思い出す。といて、具体的にどう成長したかは自覚的ではないものの、きっと成長して欲しいと自分に願う今日この頃。もうあと1年しかない、この恵まれた貴重な毎日をどう過ごすか。M2は、旅行は無理してでも行くと言っていて確かに渡米。はたまた「教授や助手の言うことを聞くより同年代の仲間と色々議論を交わすのが一番今後の身につく有益なこと」と宴の席で先生がおっしゃっていて、なるほど、何よりこの研究室という場に同じ時期に一緒になったメンバーとあってもない、こうでもない議論できるということはまたとない機会だと実感・決意した次第です。